

Vol. IV. Le monde fœdale, par J. Calmette; vol. V. L'In-
dication du monde moderne, par J. Calmette; Vol. VI. Le
XVIIe siècle. (前川貞次郎)

○太平洋を繞る國々

小野鐵二 共著
別技篤彦

現時の緊迫した國際情勢は先づ我々をしてこの世界的危機に登
場して來る諸國の事情に就いて認識する必要を感じしめる。而し
て我等の關心の一半が太平洋にあることは言ふまでもない。さう
した意味に於て小野教授・別技文學士の共著になる「太平洋を繞
る國々」は極めて大きな意義を持つものと考へられる。

敘述は前篇と後篇に分かれたれ、前篇に於ては先づ太平洋が世界
史の舞臺に登場してくる過程から始まつてその自然と人、交通、
精神文化、國際關係の展望の順序で述べられてゐる。後篇に於て
は太平洋を繞る國々の現狀が明かにされて居り、各國に就いてそ
の自然、人種、歴史から政治状態、經濟事情に至る迄極めて要領
よく簡単に纏められてゐる。

本書の特色の一としてはそれが極めてすら／＼と且興味深く書
かれてゐて非常に読み易いことが擧げられる。筆者も亦本書に引
きずられて一氣に最後まで讀んだ一人である。殊に無味乾燥であ
るべき統計が文章の中に組入れられ乍ら、少しもさうした感じを
抱かせられない。

本書が極めて解り易く、且要領よく纏められてゐることは太平

洋及びそれを繞る國々に就いての常識を一般人に與へると云ふ本
書の内容を充分に達せしめてゐる。日本の軍縮脱退と共に世界各
國の關心は太平洋に集まつてゐる。この際我々日本人が太平洋を
繞る國々の現狀を知つて置くことは最も必要であらう。その意味
に於て本書は専門家にのみでなく、又一般の人々にも趣味と實益
を兼ねたものとして推賞出来る。(四六版七一四頁、定價圓八
拾錢 章華社發行) (安藤)

○考古學論叢(第一輯)

考古學研究會

考古學の分野に於ける熾烈なる研究者によつて守り育てらるべ
き専門雜誌としてあらはれた本論叢は、その題簽を濱田先生より
與へられ、そしてその發展性を將來に持つものとしての感を深
からしめる。今第一輯の内容を示して來るべき第二輯以下の内容
の發展を期待する。

内 容

- 一、美術史と考古學 長廣 敏雄
 - 二、西南日本繩文土器の研究 三森 定男
 - 三、廢光明山寺の研究 角田 文衛
 - 四、古代支那動物模樣特に三代古銅器模樣的溯
源とその意義 中村 清兄
 - 五、ニコルスキー「先史學方法論」 彌津正志譯
- (季刊、菊版一五〇頁、年金參圓)

OT. Passek; La Céramique Tripoliteenne.

Moscou-Leningrad 1935.

近東、黒海沿岸に於ける彩色土器はスーサ・アナウ等の其と同様に古代文化史研究の上に大きな寄與をなすものであるが、キエフの近傍なるトリポリエにて發掘せられた此種の土器ならびにそれ等を含む遺蹟に關する報告はソ聯の考古學機關誌 *История* に載せられたる論文を以て唯一のものとした。

この際にあつてソ聯物質文化史アカデミア紀要として出版せられたる本書は先づ全文佛語になる事を以て我々のより近づきやすいものとなつてゐる。

本書はウクライナ・キエフの近傍トリポリエに行はれた發掘品中その土器の研究であつて、全書を七章にわかち第一章に於てはロシアに於ける考古學發掘史及其の研究史をあげてゐる。次でロシア國內に於ける各地の博物館にあるハセック氏のとりあつた材料を明示して第三章に入つて之が詳細なる研究を行つて次の如く

Section 1. Céramique à surface polie, à teintes orangées et à peinture monochrome. — 六型

Section 2. Céramique à fond clair et à peinture polychrome. — 五型

Section 3. Céramique à surface lisse et à ornementation gravée à la pointe. — 八型

Section 4. Céramique cannelée, à cannelures larges et pro-

fondes en rigoles entrant dans le système du décor.

—— 一型

Section 5. Céramique à surfaces striées. — 四型

の五類二十四型の分類を試みてゐる。次でこれら土器全體を通じての概観をなし土器の編年を考へ、最後の第七章に於て歐亜との聯關の上に於てこのトリポリエ土器の考察を行つて結論となしてゐるのである。

彼はこの結論に於て、物質文化遺物は完全にその段階の文化を反映するとはいへないとして、トリポリエの文化の發展の諸段階は經濟的、社會的發展を理解せねば充分に之を理解する事ができない。トリポリエ文化は東歐に發展してゐて、銅石併用期から初まり青銅期に終をつげてゐる。その間數個の段階を存して居り、各段階間は時間的には緩漫に長い經過を有してゐる。そしてその社會は經濟的には農耕であり、人口は豊かである。且つその文化の地域は廣大である。そして、そこに示された各段階の文化は互に重なりあつてゐる事が見られる。この文化はドニエストル河、ドニエブル河、黒海沿岸を中心として、東又は南東に發展をつうけて行つたらしい。それは中歐にまで及んでゐる事を示してゐる。しかしながらその文化の起原は恐らくはダニューブによつて示される中歐の地に求められるかも知れない。

彼はかくの如くに推論し、その間 G・チャイルド氏を初め歐洲の諸學者に對する批判を行つてゐる。そして最後にチャイルド氏の B・C・二五〇〇年以前を以てこの文化に比定するに對して自分は

二〇〇〇年を以てトリポリエ文化最後期に當てんと思ふものと結んでゐる。

(總頁一六四頁、一二二圖、三十七圖版、表一枚。なほ本書は考古學論叢第二輯に於て彌津正志氏の全譯が發表されるであらう)〔中村〕

彙報

○京都帝國大學文學部史學科

昭和十一年卒業論文題目

國史專攻 (十六名)

明治維新の歴史的意義

原始眞宗の精神傾向

慈圓の研究

徳川初期に於ける排耶蘇思想

近世國學者の復古思想

上代氏族制度社會に於ける諸精神

徳川初期に於ける歌舞伎の發達に就て

徳川初期に於ける都市の發達—濃尾地方—

中世末期人の信仰

明治初期の政治思想

殉死の一考察

桃山時代と藝術

粟津惠観

稲葉慶信

小倉親雄

小田一郎

岡田良吉

岡田良吉

栗田藏

重見辰馬

田中善一

西崎憲雄

原田七五三藏

日野一成

藤田本太郎

近世農民生活の一考察

通人の史的考察

中世近世過渡期に於ける武家法令に就いて

安土桃山時代の社會と統制

東洋史專攻 (七名)

漢の武帝の財政政策

隋唐初に於ける佛教思想の一考察

會昌の廢佛に就いて

バルシー論

宋代に於ける解鹽

唐宋時代に於ける福建の開發

阿骨打を中心とする女眞勢力の發展

西洋史專攻 (九名)

フランク王國に就いて

西漸運動と交通(南北戰爭以前)

アテナイに於ける氏族制度の崩壞

歐洲大戦勃發に對する英國の外交政策に就いて

(1907年—1914年)

中世に於ける英國の都市に就いて

カチリナ陰謀事件に就いて

一八三二年英國議會改革に就いて

フランス革命と教會

Martin Luther の國家觀に就いて

眞島進

三輪芳明

村松寛

若林喜三郎

伊藤恒

伊藤恒

金谷哲雄

龜川正信

津吉孝雄

蜂谷固

日比野丈夫

八木篤太郎

磯部濤一郎

川島岩雄

佐々久

坪井豊彦

中臣惠曉

仲野彌壽治

花村文雄

諸井忠政

山口丹海